

鳥獣保護管理プランナー

宇野 壮春

合同会社東北野生動物保護管理センター

《宮城県第001号認定鳥獣捕獲等事業者》

対象鳥獣
イノシシ

活動地域
福島県

事業内容

指定管理鳥獣イノシシ捕獲モデル事業

事業の背景

福島県の避難指示区域においては、避難指示解除に向けて住民帰還のために様々な準備がなされている。帰還後の問題点の一つとして野生鳥獣の生活被害（及び帰還後の農作物被害等）が挙げられる。避難指示区域では人間の避難後にイノシシやハクビシン、アライグマ等といった野生鳥獣がこれまでの人間の生活圏に入り込み、帰還後の生活をより複雑にしている。特にイノシシは大型動物で多産であるゆえ、被害程度も大きく精神的負担にもなることが予測されるため、この地域においてのイノシシの行動特性を把握し捕獲手法を確立することは急務となっている。

依頼を受けて実施した内容

調査対象区域の選定は避難12市町村内で事前要望のあった地域とした。これは県からのトップダウンではなく市町村それぞれの課題からマッチングする場所を選定し、調査結果を還元することを念頭に置いた。そしてイノシシの痕跡の多い場所をGIS解析により地図化し、その周辺に小型および大型わなを設置した。捕獲方法にはICTによるゲートを用い、省力化に努めた。また、当該地域に生息するイノシシの行動特性を把握するためにGPS発信機を装着した。GPS発信機を装着しない個体は捕殺作業まで一貫して行った。



写真1 イノシシの足跡



写真2 GPSを装着したイノシシ

この取り組みを帰還後の地域に還元し、よりブラッシュアップした対策を提示する必要がある。特に本地域は稀有な事例であるため、野生動物だけの問題ではなく帰還する人々の包括的な支援の一部としてどのような野生動物の管理方法が適しているかを熟考していかなければならない。その一つとして捕獲モデルの構築は重要課題であると考えられる。

鳥獣保護管理プランナー

宇野 壮春

対象鳥獣
二ホンジカ

活動地域
青森県

合同会社東北野生動物保護管理センター

《宮城県第001号認定鳥獣捕獲等事業者》

事業内容

青森県二ホンジカ生息状況モニタリング調査

事業の背景

近年東北地方では二ホンジカが分布を回復させ、本州最北の青森県でも県南地域を中心に目撃情報が多発している。明治期以前には生息していたという記録があるものの、現在に馴染みのない動物に対する本県における危機感は強い。特に西日本等では高密度状態になり多大な植生被害が頻発しており、その状態になる以前の初動対策の重要性が指摘されている。

依頼を受けて実施した内容

分布情報を可視化するために、既存情報の整理を行った。そして、特に情報の多い場所を中心に糞塊密度調査を実施し、前年度調査結果との比較を実施した。また、ライトセンサス調査により繁殖集団であるメス個体がどのくらい進出しているかの把握を適宜実施した。これらから、次年度以降のモニタリング実施項目や個体数推定手法についての助言を行った。

分布回復地域における取組は全国をみてもほとんど事例がない。そのため、本県における目標設定から効果測定までの手法を模索する必要があると考えられる。ただし、基本的な考え方については恒常的にシカが分布してきた地域の手法を踏襲できるため、それらに上乗せする形でこの地域にあったモニタリング手法を確立していく必要がある。



写真1 発見されたシカの糞塊



写真2 ライトセンサス調査の様子